

安心してください！ 防災やっていますよ！

大阪大学大学院・渥美公秀教授が推奨する「イツモ防災」があります。著書『地震イツモノート』のタイトルになっている「イツモ」とは、みんなが、いつもやっていることが防災に繋がることを示しています。その本の中で次のように記述されています。

「隣の人とあいさつしている。それが大きかったです」というエピソードがある。この人らご近所同士で「イツモ」あいさつを交わして、淡路大震災が発生したときに、「イツモ」あいさつを交わす人が、自分が見当たらないことに気付いてくれ、倒壊した建物の下敷きになっていたところを助けてもらえた、という実体験です。防災活動として、何か特別なことをしていたわけではありません。あいさつは日常の小さな事柄だったはずですが、「イツモ」あいさつをしていることが、結果的に命を救うことになったのです。「イツモ防災」の精神はここにあります。」

「防災、防災！」と声高には云わなくても「日常の中で備える力が育まれていた」と云う話です。

「イツモ」以外に日常から防災活動や命を守ることを学ぶことができるものは無いのか？今「趣味」の中で考えてみることにします。

2004年3月11日発売からシリーズ化され現在も、子どもから大人まで世代を超えて一緒に楽しめるゲーム「モンスターハンター（モンハン）」。その「モンハン」から防災への手がかりを探ってみます。

ゲーム内容は、操作するプレイヤーが、狩猟を生業とする「ハンター」の一人となり、密林や森丘といった大自然を舞台に「クエスト」と呼ばれる依頼を受けて生活をします。クエストの内容は様々あり、指定されたモンスターを「狩猟」「討伐」「捕獲」するクエスト、指定された素材を「採取」「運搬」するクエストがあります。アイテムの入手システムが独特で、フィールド上では拾う以外にも採掘・捕虫・釣りの他に倒したモンスターから剥ぎ取る事で入手もできます。それらの手段で得たアイテムは、武器や防具としての利用やアイテムを換金する以外にも、アイテム同士を「調合」して有用なアイテムに変えるには、難易度の高いクエストへ行くのはもちろん、アクションゲームの基盤自身の上達する必要もあります。

防災と全く関係ないじゃないか？と思われるかも知れませんが、



ます。地域によって環境（寒暑）が違い、備え準備しておくの良いものや自分自身の服装（装備）もしっかりと選択しなければなりません。間違えると最悪、命に関わることにもなります。また、服装（装備）以外にも個性的な能力や力を手に入れることもできます。ゲームの進行としては、それぞれ地域での平穏な日常生活の中に突如巨大なモンスターが現れます。このモンスターこそ「災害」そのものです。その巨大モンスター（大災害）を倒すために、しっかりと準備をしておかなければなりません。その準備のために日常生活の中でコツコツと色々なものの備え（備蓄）やスキル（能力）等の準備が必要です。その為に色々な「学び」の中で新しいアイテム（対応力）が生み出されていきます。学びもせず、準備を怠ってモンスターと対峙しても、あっという間にやられてしまうだけです。しかし、モンスターが巨大かつ強いほど、自分ひとりでは倒すことは不可能です。そこで集会所（地域コミュニティ）と呼ばれる所に人が集まり「あいさつ」を交わし巨大モンスターを倒すという「ひとつの目的」を志しとし、みんなで一緒にフィールド（地域）に出発します。そこではみんなのそれぞれが持つ能力を結集して、ひとりでは倒せなかった巨大モンスターを倒すため、残念ながら無傷で切り抜けるとは行きません。自分の命と大切な人の命も守りながら生きぬくと云った内容のゲームです。



現実の災害対応での防災活動も同じことが云えます。いつ襲ってくるか判らない「地震・津波・台風・大雪・火災」等々に対して毎回同じ対応ではなく、それぞれに対応する防災力が必要です。その為に「学び、準備」の必要があります。自分の住む地域では、どのようなことが起こり、対応方法はどうすれば良いのかを災害が発生するまでの平穏な時期に準備しておく必要があります。準備をしていれば経験したことのない突然の大災害にも怯むことなく対応することが可能になるのです。



単なる「遊び」ではなく、奥深いものがゲーム「モンスターハンター」には潜んでいます。たかがゲームの遊びだと思わず、家族で一緒にやってみましょう。新しいコミュニケーションが生まれるはずですが、残念ながら、はるかに子どもの方が習得力も早く強くなるはずですが、そう考えると、災害時には子ども達に助けられることも多いのではないのでしょうか？

でも「ゲームが防災？」と思われるかも知れませんが、そんな時、みなさん胸を張って言ってください「安心してください！これも防災訓練です！」つづく